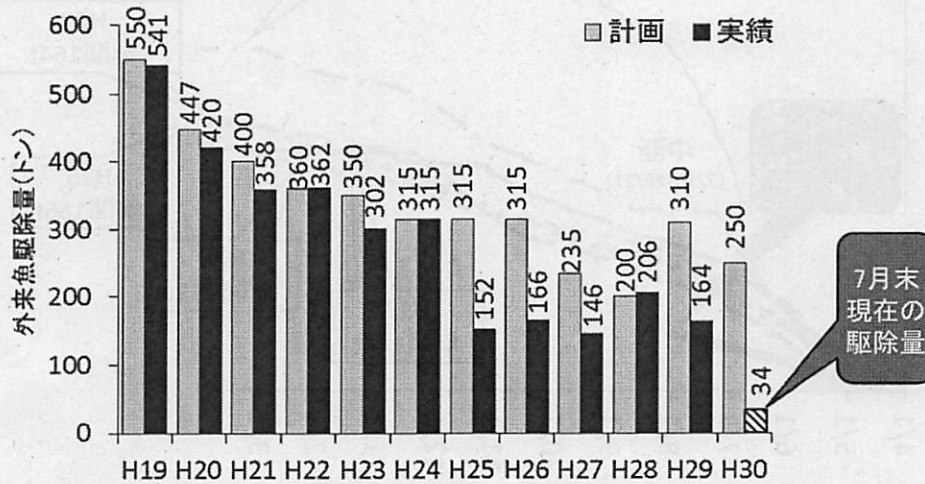


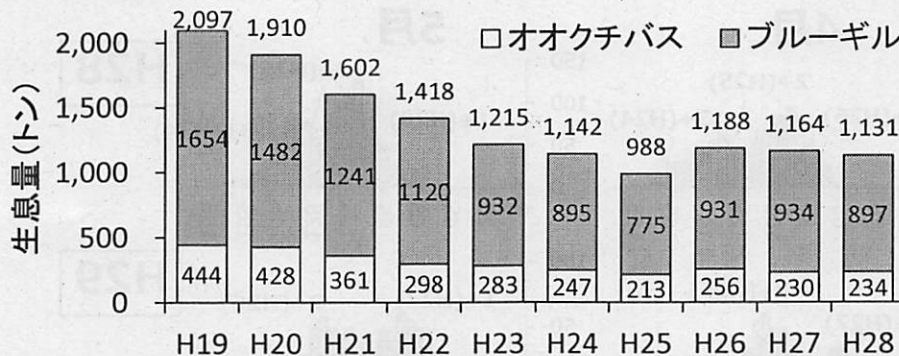
# 平成30年度外来魚駆除の状況について

## 1. 外来魚駆除促進対策事業の経過



- 平成24年までの駆除量は、300トン以上の計画量を達成。
- 平成25年以降の駆除量は平成28年を除き、天候や水草の繁茂、国補助金の不足により計画を下回る状況。
- 今年度は7月末現在で34トンと、著しく少ない状況。

## 2. 外来魚推定生息量



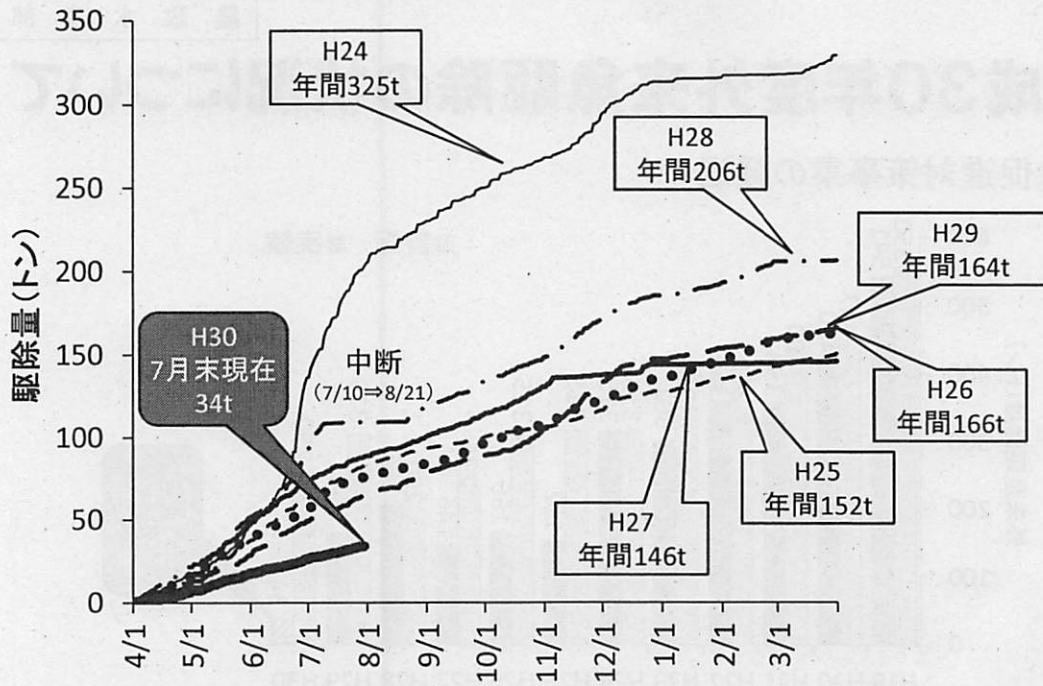
- 外来魚の生息量は、これまでの対策により減少してきたが、気象条件の影響などによる駆除量の低下により平成26年に増加し、その後は1,150トン程度で推移。

## 3. 今年度の外来魚駆除の取組

- 駆除目標を昨年の生息量推定から、増加傾向の外来魚を減少に転じる駆除量を280トンと設定して、以下の取組を実施。

| 有害外来魚ゼロ作戦事業(駆除目標)                            | 実施主体 | 今年の7月末現在の駆除実績 |
|--|------|---------------|
| (1) ①駆除促進対策事業 (250t)<br>漁業者による既存漁法による駆除      | 県漁連  | 34トン          |
| (2) 外来魚回収処理事業<br>外来魚の回収・有効利用                 | 県漁連  |               |
| (3) 外来魚産卵期集中捕獲事業 (4t)<br>電気ショックカーボートによる駆除    | 県    | 1トン           |
| (4) 外来魚駆除フォローアップ事業 (26t)<br>備船により県主導で行う外来魚駆除 | 県    | 1.3トン         |

#### 4. 今年度の外来魚駆除促進対策事業の進捗状況

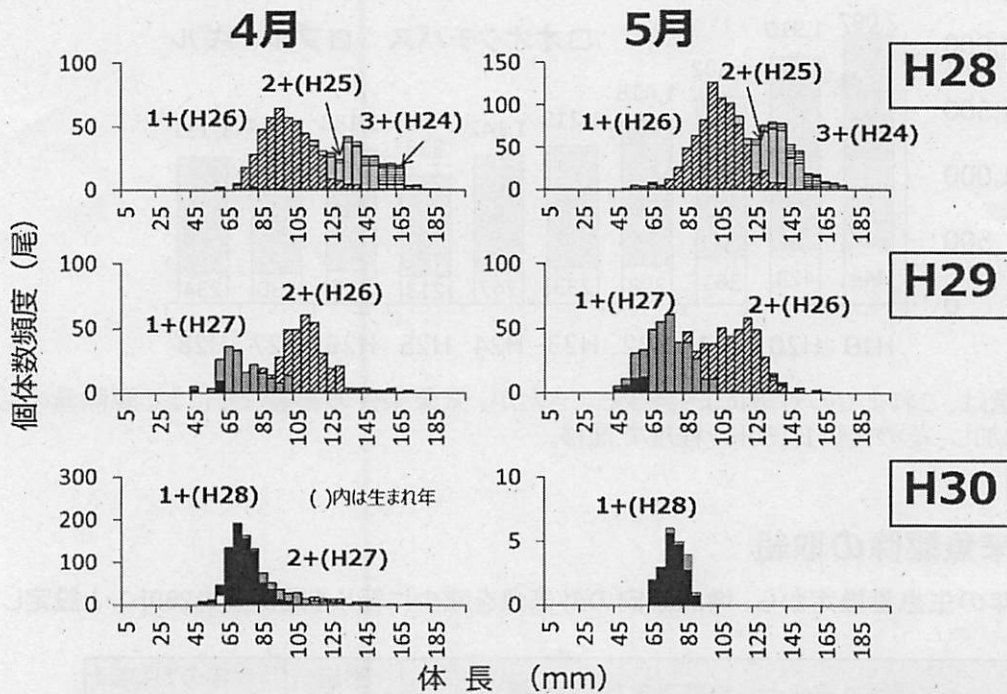


○今年度は4月当初より駆除量が著しく低迷

・駆除が低調であった昨年の同時期と比べても、駆除量が45%程度とこれまでにない少ない状況

#### 5. 駆除が低迷している原因

南湖の定置網で捕獲されたブルーギルの体長組成



○外来魚生息量の8割を占めるブルーギルの捕獲魚が小型の1歳魚で大部分を占め、大型の2歳魚以上が極めて少ない。(体重では平成29年の17.5~31.5%にとどまっている。)

○ブルーギルの小型化に伴い捕獲効率が低下し、さらに獲れないため操業日数も減少している。

#### 6. 今後の対応

○外来魚の動向把握(駆除が低迷する原因の解明、特にブルーギルの生息実態の把握)

○外来魚駆除目標量の見直しの検討